

次回からは、構想案に向けたキーワードを探していきます

ワールドカフェの成果を全体で共有

3つのテーマについて話し合いが終わったら、最初に座ったテーブルに戻り、自分たちが最初に出し合った意見から、どんな風に広がっていったかを確認しました。

どのテーマもテーブル一杯に書き込みがされており、よいまちにしたいという思いが表れていました。

最後にそれぞれのテーマで話し合われた成果が全体に発表され、「地域力が重要」「既存の資源の活用」などの意見が共有されました。

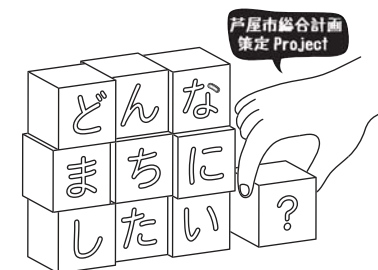
最後に第3・4回の中でビジョンに繋がるキーワードを抽出していくことを確認しました。



今回のワークショップの発表をまとめたグラフィック・レコーディング

SouKeiNEWS

No.02 芦屋市総合計画策定 Project 総計ニュース 第2号 2018年11月
芦屋市政策推進課発行



芦屋を考える 10の視点



2018.11.11(日)

第2回市民ワークショップ

テーマ：

どんなまちを
目指せばよい
だろう？

第2回目のワークショップでは、前回のテーマ「芦屋ってどんなまち？」で出された意見をもとに整理した10の分野について、芦屋はどうなっていけばよいまちになっていくのか、あしや市民活動センターにて、ワールドカフェ方式でディスカッションを行いました。

職員と市民が膝を突き合わせ、それぞれの思いや知見を共有しながら、ビジョンの策定に向け意見を出し合う前向きな場となりました。

次回予告

第3回
市民ワークショップは
12/2(日)です

第1回ワークショップの意見をもとに、10のテーマに分かれ、意見を出し合いました

マインドマップから見えてきたテーマ

下の樹形状の図は、第1回目のワークショップで出た意見を「マインドマップ」と呼ばれる表現方法で整理したものです。芦屋ブランド、子育て・教育、景観・居住環境、自然、文化、安全・安心、コミュニティ、行政施策、生活便利、商業・産業という10のテーマが浮かび上がってきました。全体に関わる「芦屋ブランド」を第3回目に扱うため、今回のワークショップではテーマから除き、その代わりにまちづくりに必要な視点である、多様な人々がともに生きる「共生」を加え、10個のテーマ別にテーブルを分け、ワールドカフェ方式で一人3つのテーマについて話し合っていました。



今回のワークショップの目的と進め方を、ファシリテーターの浅見さんからインプット

ワールドカフェ

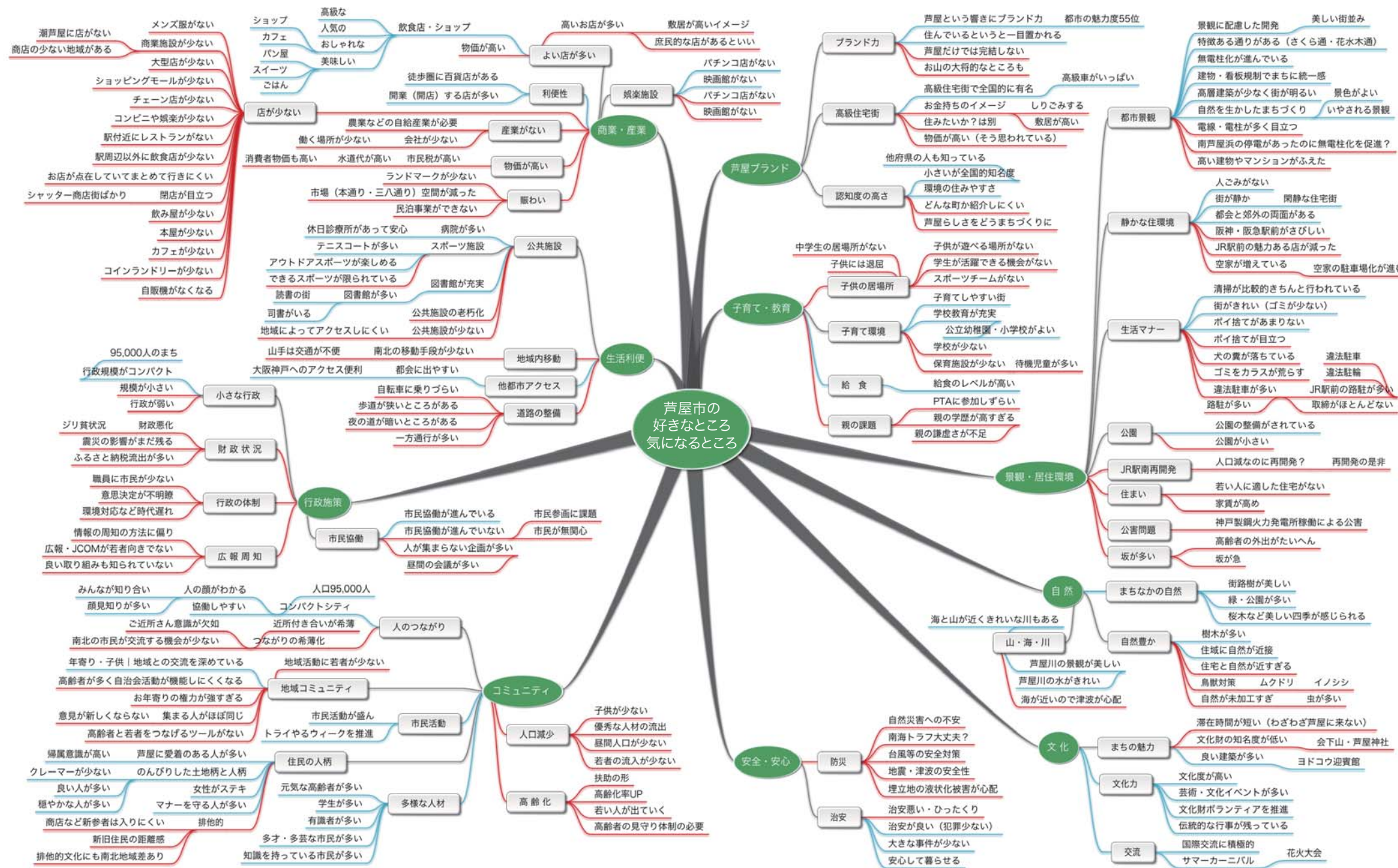


カフェのようにリラックスした雰囲気の中で、少人数に分けたテーブルで、自由な対話を行い、他のテーブルとメンバーの組み合わせを変えて対話を続けながら、参加する全員の意見や知識を集めることができる対話手法の一つです。今回は、各テーマ20分の対話をした後、別のテーマのテーブルに移動し、対話を2回繰り返した後、最初に選択したテーマのテーブルに戻りました。

- 10のテーマ
- ①子育て・教育
 - ②景観・居住環境
 - ③自然
 - ④文化
 - ⑤安全・安心
 - ⑥コミュニティ
 - ⑦行政施策
 - ⑧生活便利
 - ⑨商業・産業
 - ⑩共生

第1回ワークショップ「芦屋の好きなところ | 気になるところ」 皆さんから出た意見

※同じ意見・似た意見は一つにまとめています。紙面編集の都合で一部文章を改変したところがあります。



文字通り「膝を突き合わせて」話し合い

今回は、大きな円形のボール紙を膝の上に載せて即席の円卓を作り、その上に直接意見を書きこみました。この方法により、グッと参加者同士の距離が縮まり、心も近づいて自由に意見を出し合うことができたようです。また、芦屋市職員がテーマごとの固定メンバー役を担い、ワークショップに不慣れな職員もファシリテーターとしての経験を積むことができました。

